

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 6月
株主確定基準日 (1)定時株主総会・期末配当 3月31日
(2)中間配当を実施する場合 9月30日
(3)その他必要あるときは、あらかじめ公告して基準日を設定いたします。
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
お問合せ先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1
〈電話〉0120-232-711(通話料無料)
〈郵送先〉〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
単元株式数 100株
公告方法 当社のホームページに掲載します。
<http://www.kanefusa.co.jp/koukoku.html>
ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。

(ご注意)

特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、日本証券代行株式会社が口座管理機関となっておりますので、以下記載の特別口座の口座管理機関に、お問合せください。

特別口座の口座管理機関 日本証券代行株式会社
連絡先 〒168-8620
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
日本証券代行株式会社 代理人部
電話 0120-707-843(通話料無料)

【株式に関する「マイナンバー制度」のご案内】

市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係の手続きが必要となります。このため、株主様から、お取引の証券会社等へマイナンバーをお届出いただく必要がございます。

ホームページのご案内

<http://www.kanefusa.co.jp>

当社ホームページでは、財務データやトピックス情報など、最新のIR情報や製品情報などをご覧いただけます。

兼房株式会社



KANEFU S A

第71期 株主・投資家の皆様へ

報告書

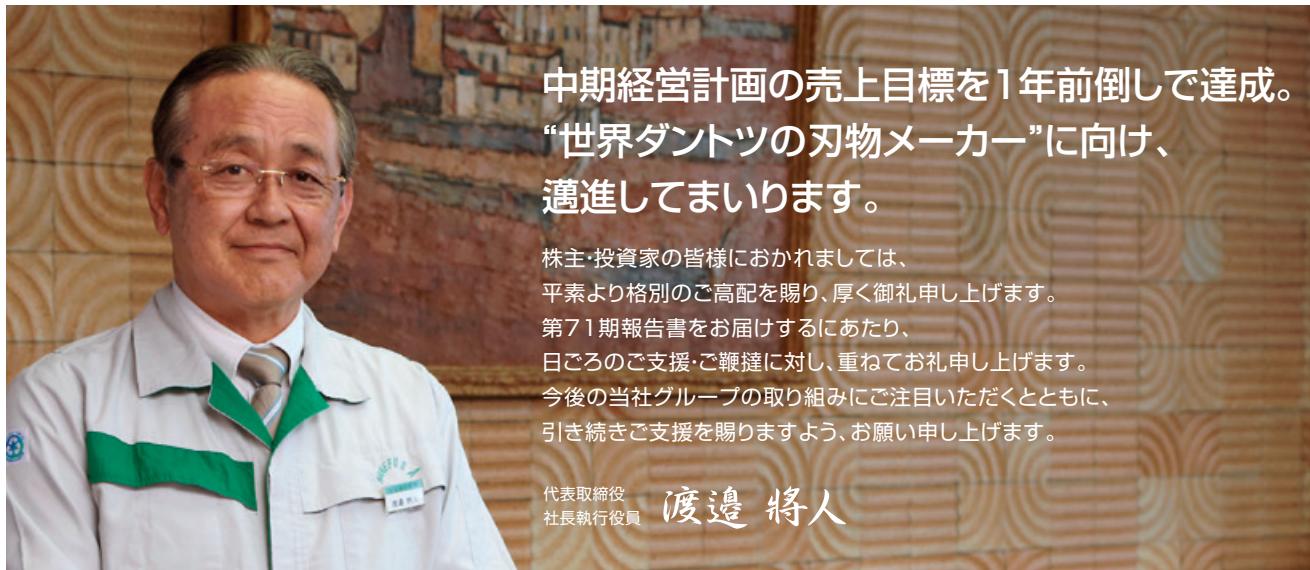
2018年4月1日～2019年3月31日

兼房株式会社

証券コード 5984



Nova panel
Nmax6300rpm
380X44X3.2X40X72
10-0-10-45
7D08011920102



中期経営計画の売上目標を1年前倒しで達成。
“世界ダントツの刃物メーカー”に向け、
邁進してまいります。

株主・投資家の皆様におかれましては、
平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
第71期報告書をお届けするにあたり、
日ごろのご支援・ご鞭撻に対し、重ねてお礼申し上げます。
今後の当社グループの取り組みにご注目いただくとともに、
引き続きご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

代表取締役
社長執行役員 渡邊 将人

2019年3月期の業績について
お聞かせください。

国内市場では、住宅市場が漸減傾向にある中、住宅関連刃物が
想定よりも堅調に推移しました。これは、長年培ってきた当社の技
術力がお客様からご支持、ご信頼頂けている結果と、ありがたく感
じています。また、自動車関連市場での設備の入れ替えや増設に
伴う需要増加により、自動車関連刃物も好調に推移しました。

一方、海外市場においては、中国では自動車関連刃物こそ堅調
であったものの、鋼管関連などそれ以外の製品が減少し、売上は
ほぼ横ばいでしたが、円高の影響を受け、円換算すると前年を下
回りました。

米国では拡張的財政施策のもと、自動車関連刃物が好調で売
上が伸びました。欧州では木工関連刃物が伸びましたが円高の影
響で、最終的には売上微増となりました。

インドネシアでは、マレーシアにおける森林伐採規制などの懸
念材料は依然としてあるものの、当期については、木工関連、自
動車関連いずれの刃物も好調で、売上・利益ともに伸長しました。

これらの結果、2019年3月期の売上高(連結ベース)は202
億7百万円(前年同期比3.4%増)、営業利益19億3千万円(前
年同期比10.8%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は13億
8千1百万円(前年同期比32.1%増)となりました。

中期経営計画2年目の成果と
今後の方針についてお聞かせください。

目標とした売上高200億円は1年前倒しで達成することがで
きました。その一方で、昨年度は旺盛な需要に対して、生産能力に
十分な余力がなく、販売機会を活かせないという課題も残りました。
そこで国内外の生産設備を拡充するとともに、ベトナムに新
たな生産拠点を建設しています。すでに新工場スタッフの採用
も、国内・現地の両方で進めています。ベトナムは親日的で、就労
意識も日本と近い国であり、当社のマネジメントにすぐ馴染んで
カネフサグループの一員として大きな成果を出してくれるものと
期待しています。日本、中国、インドネシア、そしてベトナムと4拠
点のグローバル分業体制を確立することで生産能力はもとよりコ
スト面でも一層の優位を目指します。

さらに、今後は地域ごとの状況変化や、業界ごとの需要動向な
ど、それぞれに見通しを立てたうえでの対応が必要になってくる
と考えています。たとえば自動車業界の場合は部品メーカーをは
じめ、関連産業全体が現地生産に移行している状況で、各地での
切削需要に広く、きめ細かく応えていくことが重要です。同時に、
今後住宅着工戸数の減少が想定される国内市場を中心に新たな
市場の開拓も課題となります。そこで、高精度な切削技術が必要
とする市場をターゲットに新製品の開発や営業活動を展開してい
ます。大きな成果となるには時間が必要ですが、徐々に数字に現
れてきています。

当社の大きな強みは製品ラインナップの広さです。木材加工は
もちろん、金属・樹脂加工、製紙・紙工など様々な分野での「切る・削
る」シーンに対応できる唯一のメーカーだと言えます。そのノウハウ

を横断的に展開し、あらゆる切削ニーズに対し、高精度で効率的なソ
リューションを提案することができます。この強さをもっと世界に広め
たいと考えています。当社が狙うのは「切削で真っ先に相談する相
手はカネフサだ」というまさに“ダントツ”のブランドポジションです。

皆様に期待をして頂いているタイリング技術※に関しては、着
実に進捗しているものの、お客様における検証には十分な期間が
必要であり、本格的な展開まで時間がかかっています。具体的
なお話ができるまでには、もう少しお時間をいただきたいと思います。
いずれにせよ、当社のタイリング技術は、あらゆる機械・設備
の性能向上に貢献できる技術であり、日本のものづくり産業全体
でお役に立てるよう、実用化に向け進めてまいります。

最後になりましたが株主の皆様への
メッセージをお願いします。

今後も、国内外の経済動向、為替動向などは不透明な状況が
続くと考えられます。当社グループでは、最終年度を迎えた中期
経営計画を着実に実行するとともに、持続的な成長を果すための
設備投資などもしっかりと
行い、“世界ダントツ刃物
メーカー”を目指すとも
に、更なる企業価値向上
を図り、配当性向30%を
堅持してまいります。株主
の皆様におかれましても、
引き続きご支援のほど、よ
ろしくお願いたします。



※タイリング技術：自動車のピストンなど部品同士が擦れ合いながら動く面(摺動面)にちょうどゴルフボールのディンプルのような「くぼみ」を作ることで摩擦抵抗を低減し、省エネ・
効率化を目指す技術。

免責事項

本報告書に掲載されている当社の計画・戦略および業績見通しは、将来の予測であって、リスクや不確実な要因を含んでおります。実際の業績等は、様々な要因により、
見通し等と大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。将来予測に関する記述に全面的に依拠することはお控えいただけますようお願いいたします。

世界ダントツ 刃物メーカーへの躍進

中期経営計画のコンセプトは、「アクションスピードを加速させ、経営資源最大活用により世界ダントツ刃物メーカーへ躍進する」。品質、スピード、人財において、業界ダントツNo.1のレベルを確立してまいります。

●兼房グループ2019年度

中期ビジョン
売上高

200
億円以上

中期ビジョン
売上高
営業利益率

10%
以上

取り組みテーマ

連結売上高向上

為替や景気などの外部環境に関係なく、売上高計画を達成する。

課題解決のスピードアップと利益増大

各種データ活用など経営見える化により、業績目標必達に貢献する。

革新的技術開発と新製品の早期事業化

新規市場および隣接市場において、部門横断的に新製品開発に取り組む。

原価低減

売上高原価率、対売上高経費・販管費率の低減に取り組む。

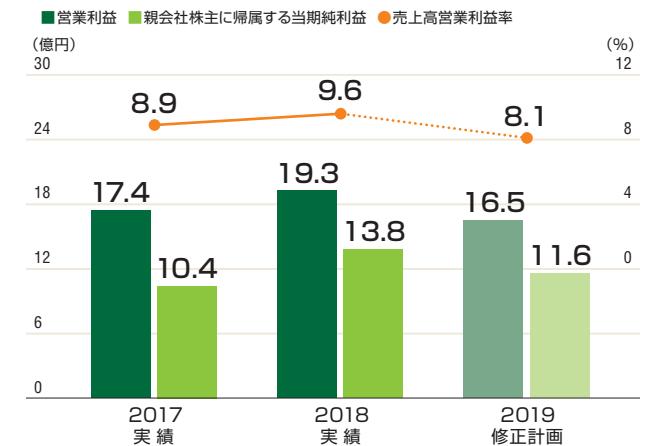
多層的な人財育成

グローバル人財の採用・育成、多様な人財の活用を促進する。

●売上高・経営目標



営業利益・親会社株主に帰属する当期純利益・売上高営業利益率



地域別売上高計画

(単位:百万円)

	2017 実績	2018 実績	2019 修正計画	
国内	10,421	10,755	10,810	
海外	アジア	4,455	4,563	4,550
	アメリカ	2,120	2,346	2,360
	ヨーロッパ	2,361	2,376	2,350
	その他	186	165	190
	海外合計	9,123	9,451	9,450
総合計	19,544	20,207	20,260	

製品別売上高計画

(単位:百万円)

	2017 実績	2018 実績	2019 修正計画
平刃類	6,013	6,160	5,980
精密刃具類	4,127	4,229	4,350
丸鋸類	9,138	9,556	9,700
商品	265	260	230
総合計	19,544	20,207	20,260

概況

当連結会計年度における世界経済は、積極的な財政政策により好調な米国経済が牽引役となり、概ね堅調に推移しましたが、年度後半は、米中貿易摩擦激化とデレバレッジ政策の影響などで中国経済が減速し、欧州もドイツ自動車生産の落ち込みやEU域内の政治的混乱などから減速基調となりました。さらに新興国でも、IT・半導体需要の鈍化などから輸出が減少傾向となり、米国利上げによる通貨下落の影響も加わって、景気減速基調が強まりました。設備投資や個人消費など内需中心に緩やかな回復を続けてきた日本経済も、足元では中国向けの輸出減少など世界経済下振れの影響を受け、先行きの不透明感を深めています。

このような状況の下、当社グループは、海外生産の増強、グローバル市場での販売拡大、国内住宅関連市場の占有率拡大や非住宅関連市場の開拓などを旨とし、戦略的な製品開発、生産、営業活動を展開いたしました。

売上高

国内における売上は、住宅関連刃物が前年同期とほぼ横ばいでしたが、非住宅関連刃物は増加となりました。一方、海外での売上は、中国市場が前年同期から減少しましたが、東南アジア、米州、欧州市場などは増加し、当連結会計年度の売上高は202億7百万円（前年同期比3.4%増）となりました。

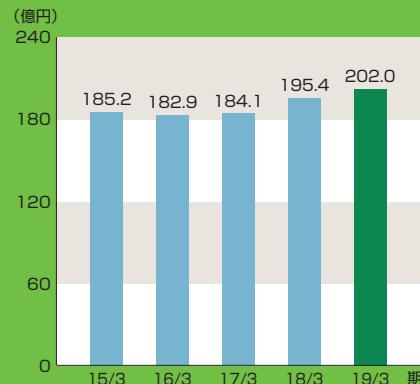
利益

利益面につきましては、主に国内の売上原価率改善などから、営業利益は19億3千万円（前年同期比10.8%増）となりました。営業外損益では、前年度1億6千8百万円計上した為替差損が当連結会計期間では為替差益1百万円となり、経常利益は19億3千9百万円（前年同期比21.8%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は13億8千1百万円（前年同期比32.1%増）となりました。

来期の見通し

来期の連結業績見通しとしては、為替レート1米ドル=105円、1ユーロ=120円の想定のもと、売上高は202億6千万円（前年同期比0.3%増）と微増収を予想しております。一方、利益面につきましては、ベトナム工場新設など、当連結会計年度から引き続き積極的な設備投資を計画しており、減価償却費等の費用の増加が見込まれることなどから、営業利益は16億5千万円（前年同期比14.5%減）、経常利益は16億5千万円（前年同期比14.9%減）、親会社株主に帰属する当期純利益11億6千万円（前年同期比16.0%減）といずれも減益を予想しております。

売上高



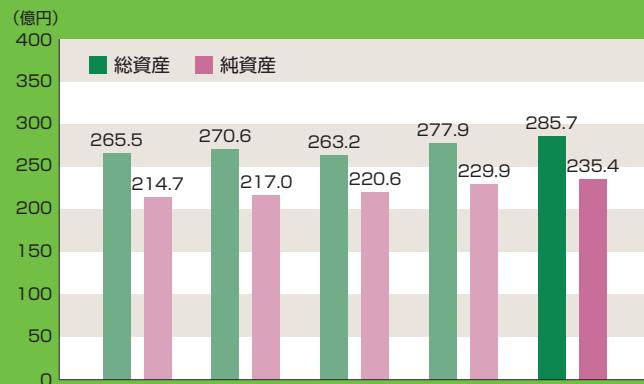
営業利益



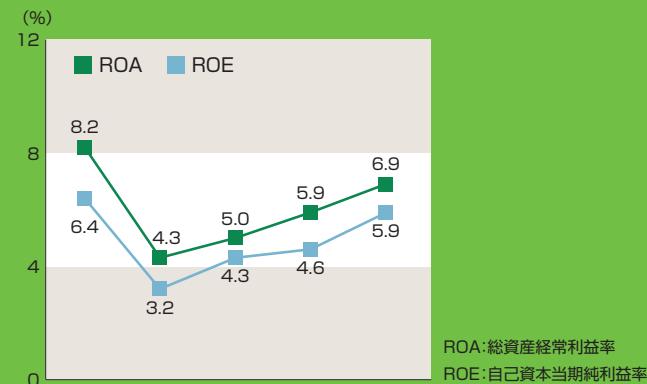
親会社株主に帰属する当期純利益



総資産・純資産



ROA/ROE



ROA:総資産経常利益率
ROE:自己資本当期純利益率

総資産

当連結会計年度末における流動資産は147億5千9百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億1千9百万円減少いたしました。これは主に現金及び預金が5億2千3百万円減少し、受取手形及び売掛金が4億3千万円減少したことなどによるものであります。固定資産は138億1千1百万円となり、前連結会計年度末に比べ9億円増加いたしました。これは主に有形固定資産が7億1千6百万円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は、285億7千1百万円となり、前連結会計年度末に比べ7億8千1百万円増加いたしました。

負債

当連結会計年度末における流動負債は43億6千4百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億6千2百万円増加いたしました。これは主に未払金が2億6千2百万円増加したことによるものであります。固定負債は6億6千3百万円となり、前連結会計年度末に比べ2千7百万円減少いたしました。これは主に繰延税金負債が6千9百万円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は、50億2千8百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億3千4百万円増加いたしました。

純資産

当連結会計年度末における純資産合計は235億4千2百万円となり、前連結会計年度末に比べ5億4千6百万円増加いたしました。これは主に利益剰余金が10億6千8百万円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は82.4%（前連結会計年度末は82.8%）となりました。

連結貸借対照表(要旨)

単位:千円

科目	期別	当期	前期
		2019年3月31日現在	2018年3月31日現在
(資産の部)			
流動資産		14,759,594	14,878,605
固定資産		13,811,728	12,911,500
資産合計		28,571,322	27,790,105
(負債の部)			
流動負債		4,364,606	4,102,225
固定負債		663,830	691,361
負債合計		5,028,437	4,793,586
(純資産の部)			
株主資本		22,967,632	21,899,327
その他の包括利益累計額		575,253	1,097,191
純資産合計		23,542,885	22,996,519
負債純資産合計		28,571,322	27,790,105

連結損益計算書(要旨)

単位:千円

科目	期別	当期	前期
		2018年4月1日から 2019年3月31日まで	2017年4月1日から 2018年3月31日まで
売上高		20,207,417	19,544,341
売上原価		13,388,662	12,973,181
売上総利益		6,818,754	6,571,159
販売費及び一般管理費		4,887,952	4,829,112
営業利益		1,930,801	1,742,047
営業外収益		60,619	68,652
営業外費用		52,270	218,453
経常利益		1,939,149	1,592,245
特別利益		85,271	2,578
特別損失		16,304	56,790
税金等調整前当期純利益		2,008,116	1,538,033
法人税等		627,054	492,353
当期純利益		1,381,062	1,045,680
親会社株主に帰属する当期純利益		1,381,062	1,045,680

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

単位:千円

科目	期別	当期	前期
		2018年4月1日から 2019年3月31日まで	2017年4月1日から 2018年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー		2,279,406	2,872,364
投資活動によるキャッシュ・フロー		△2,413,701	△1,297,848
財務活動によるキャッシュ・フロー		△313,972	△279,365
現金及び現金同等物に係る換算差額		△75,238	△18,140
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)		△523,505	1,277,009
現金及び現金同等物の期首残高		4,892,014	3,556,319
現金及び現金同等物の期末残高		4,368,508	4,892,014

連結株主資本等変動計算書(要旨)

当期(2018年4月1日から2019年3月31日まで)

単位:千円

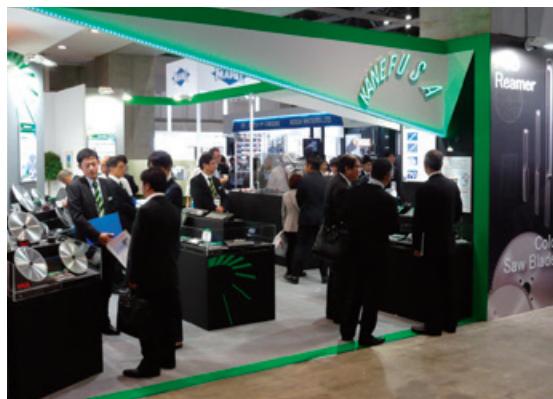
	株主資本					その他の包括利益累計額				純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	2,142,500	2,167,890	17,797,680	△208,742	21,899,327	486,702	669,185	△58,696	1,097,191	22,996,519
当期変動額										
剰余金の配当			△312,756		△312,756					△312,756
親会社株主に帰属する当期純利益			1,381,062		1,381,062					1,381,062
自己株式の取得				△1	△1					△1
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						△151,477	△362,934	△7,526	△521,938	△521,938
当期変動額合計	-	-	1,068,305	△1	1,068,304	△151,477	△362,934	△7,526	△521,938	546,366
当期末残高	2,142,500	2,167,890	18,865,985	△208,743	22,967,632	335,224	306,251	△66,222	575,253	23,542,885

JIMTOF2018

JIMTOF2018(第29回日本国際工作機械見本市)が東京ビッグサイトで開催され、当社も出展しました。同見本市は、最先端技術がいち早く発表される場として、世界各国の業界関係者より高く評価されています。今回は出展社数1,085社、来場者数15万3千人、いずれも過去最多で非常に盛況でした。当社はブース内



で、自動車部品等の摺動面における摩擦を最大1/10に低減する『タイリング工具®』の実演加工を行い、来場者に当社製品の性能や技術力をアピールしました。



ベトナム ハノイ近郊に第4の生産拠点を新設



完成イメージ

KANEFUSA VIETNAM MANUFACTURING CO.,LTD.

建物構造	鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造 地上1階建て
敷地面積	53,250㎡
建築面積	8,120㎡
操業予定	2019年10月



Information

会社概要 (2019年3月31日現在)

商号	兼房株式会社 KANEFUSA CORPORATION
設立	1948年11月25日
資本金	21億4,250万円
本社所在地	愛知県丹羽郡大口町中小口一丁目1番地
従業員数	727名
主要な事業内容	工業用機械刃物・工具・工作機械・機械部品の製造販売。ならびに、関連する事業に対する投融資及び技術供与。
主要な事業所	本社・工場 愛知県丹羽郡大口町 支社 中部 関東 関西 営業所 札幌 仙台 広島 高松 福岡
子会社	PT.カネフサインドネシア カネフサUSA,INC. カネフサヨーロッパB.V. 昆山兼房高科技刀具有限公司 カネフサインディア Pvt.Ltd. カネフサ ドブラジル LTDA. カネフサメキシコ S.A. DE C.V. カネフサベトナムCO.,LTD. カネフサベトナム マニュファクチャリングCO.,LTD. 大口サービス株式会社

役員 (2019年6月26日現在)

代表取締役 社長執行役員	渡邊 将人
取締役 専務執行役員	太田 正志
取締役 常務執行役員	鈴木 仁
取締役 常務執行役員	萬谷 哲朗
取締役 常務執行役員	山川 寿康
取締役 (監査等委員)	高須 甚吉
社外取締役 (監査等委員)	小池 徹
社外取締役 (監査等委員)	山崎 裕司

株式の状況 (2019年3月31日現在)

発行可能株式総数	39,000,000株
発行済株式の総数	14,310,000株
株主数	1,944名

大株主(上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
大口興産株式会社	2,299	16.5
渡邊 裕子	1,291	9.2
太田 万佐子	1,252	9.0
兼房従業員持株会	717	5.1
渡邊 浩	673	4.8
渡邊 美奈子	623	4.4
渡邊 将人	426	3.0
太田 正志	403	2.9
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	359	2.5
渡邊 久修	203	1.4

(注) 持株比率は自己株式(409千株)を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況

